暑さに弱い動物達・・・

近年温暖化の影響で、北海道の夏でも非常に暑い日が多くなってきたように感じます…。北海道の夏の気温と湿度を調べてみました！

2019年7月20日～8月10日まで
最高気温の平均：29.2℃
（22.4～34.2℃）
平均湿度：76%（66～90%）
※国土交通省気象庁のホームページより

日本の他の地域に比べると気温・湿度共に落ち着いていますが、毛を纏っている動物達にとっては十分暑いです。特に北海道でのエアコン普及率は低く、室内の温度・湿度が高くなりがちです。

北海道25.7%vs全国86.4%
※2014年全国消費実態調査

そのため、暑い日には快適に過ごすための工夫が必要になってきます。

様々な動物で熱中症が報告されていますが、特に多いのが犬での報告です。
犬の熱中症とは、体温が何らかの理由で**41℃以上**に上昇することで、細胞が機能しなくなり、**あらゆる臓器に障害が起きる病気です**。
また、**過度な脱水**に陥り、血液の循環が悪くなることで、さらに臓器障害が悪化してしまいます。治療が遅れてしまうと、**命を落としてしまう危険な状態なのです**。

熱中症になってしまう原因

- 暑い日のお散歩や激しい運動
- 密室空間（車内）での長時間の滞在
- 短頭種（チワワやシーズーなど）
- 内臓疾患のある子
- 長時間続くけいれん発作時
- 肥満の子
- 高齢や寝たきりの子など

熱中症の症状

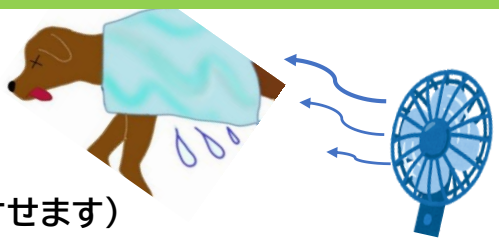
- **意識障害**
（意識が朦朧、反応が悪い）
- **けいれん発作**
- **全身の異常な震え**
- **呼吸が速い**
- **下痢（血便）**

応急処置の方法

※病院に向かうまでに時間がかかりそうな時に実施してください

1：水で濡らしたタオルを体にかける
（タオルが無ければ体の表面や毛を濡らす）

2：扇風機やうちわで風を送る
（1で行った水分を揮発させて体の熱を放散させます）



✕やってはいけない事✕
※氷やキンキンに冷えた水で冷やす
→冷たすぎると、血管が締まってしまい逆に悪化します！！！

※症状が落ち着いたので、そのまま様子を見る
→目に見えないところが障害を受けているかもしれません。
必ずお近くの病院に相談しましょう

わんにゃん救急新聞
夏号

今回のLINE UP

暑さに弱い動物達
-犬の熱中症-

猫の落下防止のために

電話番号はこちら↓
☎ わんにゃんきゅーきゅー
011-281-1299
ホームページはこちら↓
sapporo1299.net

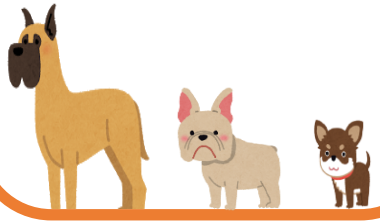
一番大切なことは、熱中症にならないように予防をすることです。

☆涼しい時間帯にお散歩へ行きましょう
☆お留守番の時は風通しの良い日陰で過ごしましょう
☆いつでも水分補給が出来るようにしましょう
☆暑い日は遊びすぎないようにしましょう
☆クールマットやアイスノンなどのひんやりグッズを活用しましょう
☆思い切ってエアコンを設置しましょう

クールマットの誤食に気を付けてね

わんちゃん同様、暑さに弱い動物が多いです。
理想の温度と湿度で快適な夏にしてあげましょう！！

犬種や体格、年齢、体形で理想の温度や湿度が変わってきます。大型犬、短頭種、毛が密な犬種では暑さに弱い傾向にあります。



チンチラは特に暑さに弱いです。25℃以上の環境では熱中症を引き起こす可能性があります。

理想の飼育温度と湿度

犬：18～25℃　50%前後
猫：20～28℃　50%前後
うさぎ：18～24℃　50%前後
モルモット：18～26℃　50%前後
チンチラ：18～21℃　40%前後
ハムスター：18～24℃　50%前後
ハリネズミ：24～29℃　30%前後
フェレット：15～25℃　50%前後

ハリネズミは比較的暑さに強い動物です。しかし30℃を超える環境では夏眠の状態になります。これはハリネズミの出生がアフリカのサバンナであり、その過酷な環境を生き抜くための習性とされています。

僕は10-20℃が快適だよ

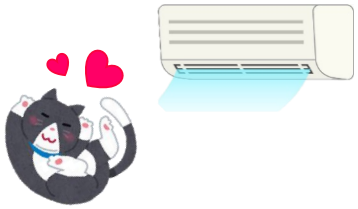
私は7-23℃が快適だよ

猫の落下防止のために

夏になるとマンションのベランダから落下したネコちゃんが来院が多くなります。
高所から落下すると骨折はもちろん内臓破裂や気胸などが起き、命を落としてしまうこともあります。
そんな状況にならないように大切なネコちゃんのために何ができるか考えてみましょう。

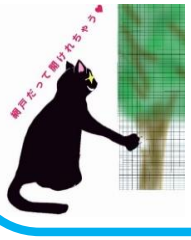
お留守番など目を離すときには窓を開けっぱなしにしない

部屋が暑くなりすぎるのであれば、扇風機やエアコンを活用しましょう



網戸をネコちゃんが開けないよう工夫する

学習して網戸を簡単に開けれるようになります。開けれないようにストッパーをつけましょう



網戸ストッパー
100均にも売ってるよ

ベランダに出さない

万が一ベランダに出てしまった場合は、優しく声をかけたり好物で部屋の中に誘導してあげましょう。パニックになるのが一番ダメです。驚かさないようにしましょう。

飼い主さんが工夫をしてあげると、危険な状況を回避できるかもしれません。
たった一つの小さな工夫で防げる事故なのでやってみてはいかがでしょうか？